第6学年 総合的な学習の時間(防災学習)学習指導案

平成24年12月5日(水) 第5校時 児童数 6学年 男子30名 女子28名 計58名 指導者 6年1組担任 西村 大典 6年2組担任 野本 真紀

1. 単元名 ぼくらは防災メッセンジャー

2. 単元について

須崎市は海岸線に面しており、海の恩恵を受け発展してきた町である。歴史的に辿って見ると、 豊かな水産資源に恵まれ、水深の深い湾を利用した大型貨物船による貿易港として海とともに歩 んできた経緯がある。

しかしその反面、海に苦しめられた歴史も存在する。100年~150年周期でくる南海地震やそれに伴う大津波による被害は甚大なものであり、その度に死者や家屋倒壊、湾内の地盤沈下や海水面が広がること等が繰り返された。須崎市の歴史は津波との闘いの歴史と言えるのである。次に来る南海地震は、昭和の南海地震を大きく上回る規模であり、予想される県の被害想定では、須崎市は震度6強、津波の高さは場所により25mを超え、大規模な被害をもたらすと言われている。しかもその南海地震は近い将来必ず起こると言われ、いつ起きても不思議ではなく、明日来るかもしれないという時期にかかっている。地震に対する備えや、津波に対する備えをしっかり把握し、「その時」自分はどう行動できるかを問われているのである。

そこで、これらの課題解決に向けた素地作りにしていけるものと考え、防災学習プランとして 上記単元を設定することとした。地震のメカニズムを学習することによって、地震のすばやく対 応できる力を育み、また避難ルートと避難方法の学習や避難後の生活やライフラインの確保等の 学習を通して、自分で自分の命を守るためにどう対処できるかを考え行動できる子どもに育てて いきたい。

本校の6年生は、津波に対して敏感である。土地柄が津波被害を受けてきたこともあり、地区の古老が南海地震やチリ津波などの津波被害を語り継いできた歴史を伝え聞いている。また、2011年の東日本大震災による未曾有の被害をメディアを通して目の辺りにし、次々と伝わる映像やニュースで津波の破壊力の恐ろしさを実感した。さらに、この東日本大震災による津波浸水被害や漁業被害を西日本で唯一出したのが須崎湾であることも関係している。修学旅行での津波高潮ステーションでの震災学習でもまじめに取り組み避難訓練ではすばやく行動できる。

しかしながら、「自分の命を自分で守る」「その時どう対処できるか」という自分の命にかかわる主体的な部分では、自分から進んで行動するというより、学校や地域の主導の下に素直に従っている粋を抜けていない。

本時の学習においては、児童が自分たちで地震・津波への備えや地域の地震の歴史等を調べて発見したことをグループ別にまとめ、ポスターセッションを行う。同学年の児童に繰り返し伝えることにより、防災に対するメッセンジャーとしての自覚を高め、また他の児童の発表や取り組みを知る中で、今以上の防災に対する意識づけを図り、これからの津波と向き合う生き方の基礎作りとしたい。

3. 目標

- ・自分一人でも適切に避難し対応できる防災の総合的な力を培う。(推進の視点 A)
- ・避難生活において、自分が人のために何ができるかを考え行動しようとすることができる。 (推進の視点 B)
- ・地震発生のメカニズムや地域の災害の歴史と対策について理解する。(推進の視点 C)

4. 評価規準

関心・意欲・態度	学ぶ力・考える力	表現力
・自分から進んで防災意	・自分や人の命を守るために自分がど	・学んだことを、身近な人た
識を持とうとしてい	う対処するか、何ができるかを考え	ちに分かりやすく伝えて
る。	行動しようとしている。	いる。
	・地震や津波、防災についての仕組み	
	や避難方法の基礎的な知識を理解	
	している。	

5. 指導計画(全19時間 本時12/19)

	時間	学習活動	教科 領域	学習内容	評価(方法)
第一次	2 時間	地震のメカニズ ムを知る。 気象庁 C アラー	理科	火山活動や地震による断層の 仕組みや、地震の規模や震度に ついて知る。 緊急地震速報の仕組みと働き	震度によってゆれの大き さの違い、マグニチュード の破壊力について知る。 【学ぶ力・考える力】 (ワークシート) 数秒前に知ることと早期
	時間	トの仕組みを知る。	社会総合	について理解する。	避難のよさについて知る。 【学ぶ力・考える力】 (発表・感想文)
	1 時間	地震津波の歴史を知る。	社会	須崎市の津波に襲われた歴史 を知り、今後も繰り返し襲われ ることについて理解する。	津波との戦いの歴史が繰り返されたことを知る。 【関心・意欲】 (発表・ワークシート)
	1 時 間	津波に対する備 えを学習する。	総合	いろいろな場面を想定し、何を 準備しておくか知る。	防災グッズの上手な活用 方法を見つける。 【学ぶ力・考える力】 (発表、ワークシート)
	2 時間	ライフライン・ 共同生活につい て知る。	保健	一人や共同生活での支援活動 を知るとともに、ライフライン や緊急電話の大切さについて 学ぶ。	人は支えあい協力しなが ら困難の条件の中でも生 き抜いていけることを知 る。

					【関心・意欲】
					(発表、感想)
		テーマ学習、第		 自分のテーマを友達と協力し	課題意識を持ち進んで調
	3	1次まとめをす		て調べまとめる。	べ、まとめようとしてい
	時	T	総合		る。【関心・意欲】
	間	.00	וינגי ב		(発表原稿、ポスター、行
第	111				動観察)
		ポスターセッシ		 ポスターセッションで発表し	防災メッセンジャーとし
次	1	ベハブ - ビッン ョンを行う。		友達に知らせる。	て、自分の調べたテーマを
	時	ョンで11 フ。		久建に知りせる。	分かりやすく伝えている。
	間		総合		【表現力】
	本				【衣玩刀】 (発表、ポスター・発表原
	時				福、質疑、感想用紙)
		、吹 ##・ → ・		ウハシウザーフでザー・ディ	
Andrea		避難マップ・避		・自分が避難する避難マップを	自分の命を守るために行
第一	4	難経路案内板作		作る。	動で、避難のパターン化を
三	時	りをする。	総合	・地域住民が避難できるような	シュミレーションしてい
次	間			案内板を、町中に張り出す。	る。【表現力】
					(自分のマップ、案内板)
		まとめをする。		自分の命を守るために、常に防	防災を自分のことと捕ら
	2			災意識を持ち、どう考え行動す	え、どう行動すればいいの
	時		総合	るかをまとめる。	か考えている。
第	間				【学ぶ力・考える力】
匹					(感想文・発表)
次	1	全校に向けて発		人権発表会において、学んだこ	メッセンジャーとして、工
	時	表する。	総合	とを発表する。	夫した分かりやすい発表
	間		称它口		をしている。【表現力】
	旧印				(発表、感想文)

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・防災メッセンジャーとして、自分の調べたテーマについて使命感を持って友だちに分かり やすく伝えることができる。
- (2) 準備物 (ポスター・小道具・発表原稿用紙・感想用紙等)

(3) 展 開

学習活動	指導上の留意点	評価(方法)
防災メ	ッセンジャーとしての使命を達成し。	よう
1. ポスターセッションの進め 方の確認をする。	○発表の手順と評価の観点を押さえさせる。〈評価の観点〉・分かりやすく説明できたか・資料や聞き取ったことを分かりやすくまとめていたか・新しい発見があったか	
2.1組が発表をし、2組は質問や発表の仕方の評価をする。	 ○1組が3種類のテーマについて 説明させる。2組は5分ごとに 移動し説明を聞き、質問等がで きるようにさせる。 〈テーマ〉 ・地震のメカニズム ・気象庁 C アラートの仕組み ・地震津波の歴史 ・津波に対する備え 	防災メッセンジャーとして、自分の調べたテーマを分かりやすく伝えている。【表現力】 (発表・ポスター・発表原稿、質疑、感想用紙)
3. 2組が発表をし、1組は質問や発表の仕方の評価をする。	・ライフライン ・共同生活と復興 ○聞き手には、自分も次なるメッセンジャーになれるよう使命感を持って聞かせる。	
4. 各自が感想をまとめ、交流し合う。	・よかった点、気にかかった所を 感想用紙にまとめさせる。・全体で自分が感じたことを出し 合い、他の児童の発表したテー マの大切さに気づかせる。	他のグループの発表を自分にもかかわる問題として受け取り、良い部分に気づいたり新しい発見をしたりしている。 【学ぶ力・考える力】 (ワークシート、発表)
5. 地域のために自分たちがで きることを考える。	○第三次の学習活動である地域住 民が避難するための案内版作り につなげていく。	

